

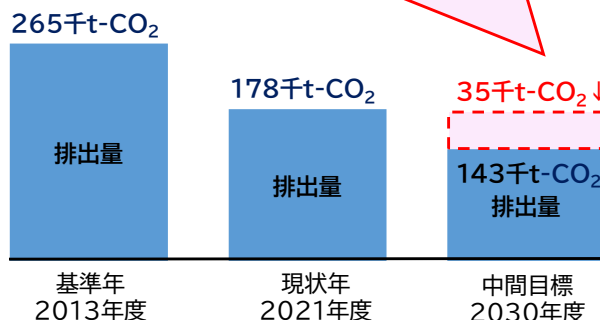
■ 熱海市はゼロカーボンシティを目指します

熱海市は、「環境と観光」をまちづくりの一環として長年推進しており、国の2050年カーボンニュートラルの実現を踏まえ、令和4年9月に二酸化炭素（CO₂）排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言しました。

現在、熱海市はCO₂を年間178千t-CO₂排出していますが、これを2030年度までに年間143千t-CO₂にする目標を掲げており、残りCO₂を35千t-CO₂減らさなければなりません。

ゼロカーボンシティの実現に向けて、熱海市の絵姿として地域の特性を生かした脱炭素社会の姿が「観光と環境の世界のモデル都市・熱海」になることを目指しています。

熱海市のCO₂削減の中間目標
2030年度までに35千t-CO₂削減



■ これまでの取組み

熱海市の1人1日当たりのごみ量は全国平均の約2倍近くになっており、ごみの減量は地域が抱える大きな課題となっています。

そのため熱海市はこれまで、雑がみの回収を推進することにより、ごみを減量する資源循環の取組みを進めてきました。回収された雑がみは、トイレトーパーに再生し、保育園・幼稚園・小中学校・福祉施設に寄贈を続けています。



このような資源循環の取組みと同時に、ゼロカーボンシティの実現を目指すため、熱海市は令和6年10月3日に地元の関係者（市民・事業者・関連団体等）のみなさんを集め、環境審議会を開催し、熱海市の特徴を活かした脱炭素ロードマップ策定に向けた協議を開始しました。

協議の中で温泉熱などの再生可能エネルギーの活用、廃棄物の減量とリサイクル、ブルーカーボンの活用、グリーンスローモビリティの導入などの熱海市で必要となる脱炭素の取組みについて関係者から様々な意見が出ています。

■ 脱炭素ロードマップの策定に向けて

脱炭素ロードマップ策定にあたっては、多様な地域資源を活かした「脱炭素×地域振興」により、熱海市を持続的に発展させていくため、地域の関係者のみなさんにヒアリングしながら、脱炭素の取組みの現状を把握した上で、熱海市の実態にあった脱炭素ロードマップを本年度中に策定する予定です。

なお、具体的な脱炭素施策の検討状況については、次のニュースレターに掲載する予定です（令和7年1月以降発行予定）

脱炭素ロードマップの基本方針（案）

- <方針1>
再生可能エネルギーの最大限の利用促進
- <方針2>
徹底した省エネルギー等の推進
- <方針3>
二酸化炭素の吸収源対策
- <方針4>
循環型社会の形成
- <方針5>
環境意識の啓発・観光振興



最近、全国で大雨や集中豪雨による災害が多く発生しているけど、地球温暖化が原因って本当？



熱海温泉PR公式キャラクター『妖精のあつお』

気温が上がると大気は海や地面から蒸発した水分を多く含み、これが大雨や集中豪雨の原因となるあつよ。このまま地球温暖化が進んで大きく気候変動が引き起こされると、集中豪雨のほかにも海水面の上昇により砂浜が無くなってしまいうなど、地球の自然環境が大きく変わってしまい、我々の生活環境にも影響が出るあつ。

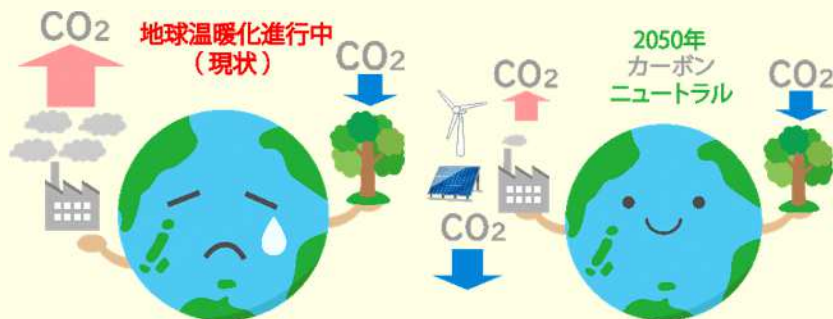
地球温暖化の主な原因となっている大気中の二酸化炭素をこれ以上増やさないためにも、「カーボンニュートラル」に向けた取組みが求められるあつ。



カーボンニュートラルって何??



カーボンニュートラルとは、人間の活動によって排出される二酸化炭素の排出量・削減量・吸収量のつり合いをとって、地球温暖化に影響をあたえないニュートラル（中立）な状態にしようという取組みのことあつよ。



深刻な被害をさけるためには気温の上昇を1.5℃以内におさえなければならず、そのためには2050年までに世界中で「カーボンニュートラル」を達成する必要があるとされているあつ。



世界中で協力していく必要があるんだね。僕たちにできることはあるのかな??



まずは、みんなの生活の中で「エネルギー」「リサイクル」「省資源」の取組も大事あつよ。

チャレンジ①

冷房や暖房の設定温度はひかえめに。使わない家電はスイッチを切るようにしましょう。



27℃

チャレンジ②

家電製品を買いかえるときは、省エネ性能の高いものを選ぶ。

白熱電球 約54W



LED電球 約10W

チャレンジ③

残さずに食べて食品ロスをへらそう。ごみの分別とリサイクルに取り組もう。

